

第11回包装近未来シンポジウム (オンライン配信)

待ったなし、包装の大変革～世界の包装規制に日本はどのように対応するか～

●開催日：令和6年3月13日(水) 13:00～16:30

●主催：公益社団法人日本包装技術協会

【包装近未来シンポジウムの参加申し込み方法について】

JPIホームページ (URL: <https://www.jpi.or.jp/>) より参加登録をお願いします。

Zoom を利用したオンライン配信となります。

お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内します。

講師・パネリストの紹介

■石動 正和(イスルギ マサカズ)氏 (講師)

一般財団法人 化学研究評価機構

食品接触材料安全センター 情報調査・広報室長

1973年 京都大学工学部工業化学科卒

鐘淵化学工業(株) (現 (株)カネカ) に入社

研究開発、研究管理に従事

2004年 塩ビ食品衛生協議会常務理事に就任

2021年 現職に就任

■鈴木 文人(スズキ フミヒト)氏 (講師)

花王株式会社 包装技術研究所 第一研究室長

1989年 花王株式会社 入社 素材研究所配属

1996年 包装技術研究所 へ異動

2019年 同 室長

■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒコ)氏 (講師・企画委員)

特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム

代表理事

東京大学法学部卒業。

環境監査研究会代表幹事、地球システム・倫理学会常任理事、

認定NPO環境経営学会特別顧問(元会長)、NPO日本

サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、(一社)

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、

(一社)環境パートナーシップ会議理事、サステナビリティ・

コミュニケーションネットワーク共同代表幹事、(一社)

レジリエンスジャパン推進協議会理事等。

環境省他各種委員会等を歴任。著書論文多数。

■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長

2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。

世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。

日本技術士会会員、技術士包装物流会会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員

技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森 泰正(モリ ヤスマサ)氏 (企画委員)

株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン

取締役社長

1972年～2009年 三井・デュボン ポリケミカル(株)勤務

1988年～1990年 米国デュボン社 パッケージ事業部門に出向

2009年～2017年 三井物産(株) パッケージング・シニアアドバイザー

2015年1月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャパンを有田氏(現有田技術士事務所 所長)より承継

現在に至る

海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す活動を行っている

開催要領

●日時：令和6年3月13日(水) 13:00～16:30

※Zoomを利用したオンラインセミナー形式

申込者に事前登録の手順をメールで連絡します

●参加費：

1名分参加費	会員	会員 (3名同時申込1名あたり)	一般
本体	16,000円	14,000円	23,000円
消費税10%	1,600円	1,400円	2,300円
税込合計	17,600円	15,400円	25,300円

●定員：100名

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会

包装近未来シンポジウム係 担当：小橋

〒104-0045

東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970

e-mail:kobashi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

参加申込方法と注意事項

【参加申込方法】

■本催しは「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となります。

お申し込みは当会ホームページのシンポジウム参加申込ページよりご登録いただくようお願いいたします。

当会ホームページURL：<https://www.jpi.or.jp/>

■参加申込者には参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)

■申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。

■申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本シンポジウムの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ませんのでご注意ください。
- ⑤開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください。

プログラム

時間	テーマ
13:00—13:50	講演① 「欧州における包装材料規制と日本に与える影響」
	プラスチックの環境問題を背景に、欧州ではプラスチック包装材料を中心にプラスチック製品に対する規制が強化されている。主な法制度として、2019年6月シングルユースプラスチック製品指令、2022年9月プラスチック食品接触材料リサイクル規則、2023年9月マイクロプラスチック制限規則、2023年11月包装及び包装廃棄物規則（調停案）があげられる。これらの法制度は欧州に留まらず世界各国に拡大し、最近では国連のプラスチック汚染防止条約制定に向けた議論にも影響を与えていることが確認できる。本講演ではこうした法制度を分かり易く解説するとともに、日本のプラスチック包装材料業界に与える影響を紹介する。
	講演者 一般財団法人 化学研究評価機構 食品接触材料安全センター 情報調査・広報室長 石動 正和 氏

時間	テーマ
14:00—14:40	講演② 「サプライチェーンを巻き込む情報開示の義務化の世界動向について～サプライヤーとしての対応も含めて～」
	IFRS* (国際財務報告基準)財団の ISSB* (国際サステナビリティ基準審議会)が本年6月にサステナビリティに関する情報開示基準S1, S2を公表した。これはG20の賛同というよりはむしろ主導で作成されたに等しいもので、金融庁は2025年を目途に有価証券報告書への記載義務化に向けて作業中と報ぜられている。 これとは別にEUは2022年12月にCSRD* (企業サステナビリティ報告指令)を制定し、本年7月には欧州委員会は報告基準としてESRS* (欧州サステナビリティ報告基準)を制定している。 これらは必ずしも対立するものではなく両立・協働しているが、IFRSがシングルマテリアリティ、CSRDがダブルマテリアリティ規準を採択しており、当然のことながらCSRDの方が広範である。CSRDには域外適用規定もあり、欧州でビジネスを展開している多くの日本企業にも適用され、また、日本の上場企業の場合は外国人持ち株比率が3割を超えており、欧州投資家等を考えると欧州基準は無視できない。 両基準共にビジネスモデルを含むバリューチェーン全体での取り組みの開示を求めており、単なるサステナビリティ情報開示の要求ではなく、むしろ開示の前提となる企業のビジネスモデル、戦略・取組の大変革を迫るものである。従って、サプライヤーに位置する包装業界にも極めて大きな影響が及んでくるのが容易に想定される。 IFRS: International Financial Reporting Standards /ISSB: International Sustainability Standards Board CSRD: Corporate Sustainability Reporting Directive/ESRS: European Sustainability Reporting Standards
	講演者 NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 後藤 敏彦 氏

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長
- 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

時間	テーマ
14:50—15:20	講演③ 『プラスチック容器の資源循環を目指して ～花王の取り組みと課題～』
	花王は1991年に詰め替えパウチを発売して以来、詰め替え・付け替え促進によるプラスチック使用量の削減に取り組んできた。また、2016年からは「リサイクリエーション」活動を通じて、地域の皆様と詰め替えパウチの再資源化に関する実証実験を行ってきた。 2023年世界初となる、使用済詰め替えパウチを再生利用した「おかえりつめかえバック」を衣料用洗剤アタックのパッケージとして製品化した。 今後、トイレットリー容器包装の資源循環を目指した、花王の取り組み紹介とそこから得られた再資源化推進への課題を皆様と共に議論したい。
	講演者 花王株式会社 包装技術研究所 第一研究室長 鈴木 文人 氏

時間	パネルディスカッション
15:30—16:30	『世界の包装規制に日本はどのように対応するか』
	世界の包装業界が注目するEUのPPWR（包装・包装廃棄物管理規則）案は、2023年11月23日の欧州議会で可決され2024年中には発効される見通しである。日本でも、サステナビリティに関してサプライチェーンを含む情報開示義務化の作業が進行中。民間セクターにおいても一社では解決できない環境問題では、漸く企業間の連携が広がり始めた。循環型パッケージは世界的に実施が予測され、日本もプロアクティブに現状を変革していくことが求められる。国際ルールが形成されてから動くのでは遅い。競争に立ち遅れないために日本の包装業界は何をすべきか、軟包装材料及びプラスチック容器に限定して議論を深めたい。
	【パネリスト】 ●講演者 石動 正和 氏 一般財団法人 化学研究評価機構 食品接触材料安全センター 情報調査・広報室長 後藤 敏彦 氏 NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 鈴木 文人 氏 花王株式会社 包装技術研究所 第一研究室長 《企画委員》 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長